

スポーツ方法実習(剣道)Ⅱ

科目ナンバリング ESS-208
選択 1単位

中澤 雄飛

1. 授業の概要(ねらい)

本授業では、剣道の応用技術について説明していきます。具体的には、「スポーツ方法実習(剣道)Ⅰ」で身に付けた技能を活かして、対人動作を活かした攻防の展開、試合を体験しつつ、指導法や審判規則、試合の運営方法について理解を深めていきます。なお、本授業は実習科目であるため、実技を中心に展開します。

2. 授業の到達目標

- ・相手の動きに応じて技の攻防を展開することができる。
 - ・試合運営のための的確な指示が出せるようになる。
 - ・剣道の試合規則、審判法について説明することができる。
 - ・剣道具の基本的な管理・修理について実践することができる。
- (教育文化学科:ディプロマポリシーの「2」に該当。スポーツ医療学科:ディプロマポリシーの「2」、「3」に該当。)

3. 成績評価の方法および基準

- ・授業への取り組み(課題への積極的なチャレンジ、発言、質問等)(40%)。
 - ・授業の省察(授業の振り返りによる技能の言語化)(20%)。
 - ・試験(審判法、試合運営、剣道具の保守点検に関すること)(40%)。
- ※授業回数の3分の2以上の出席者を評価の対象とします。

4. 教科書・参考文献

教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

参考文献

全日本剣道連盟 『剣道指導要領』
全日本剣道連盟 『剣道社会体育教本』
全日本剣道連盟 『剣道試合・審判規則／同細則』
全日本剣道連盟 『剣道試合・審判・運営要領の手引き』
その他、授業内で適宜紹介します。

5. 準備学修の内容

- ・実技ですので、体調管理には十分留意して下さい。怪我、体調不良等の場合は、随時、報告・相談して下さい。
- ・苦手な技術については、練習や授業資料による復習を行って置いて下さい。

6. その他履修上の注意事項

- ・本授業は、「スポーツ方法実習(剣道)Ⅰ」の発展科目として位置付けられています。
- ・「スポーツ方法実習(剣道)Ⅰ」を受講していなくても、履修は可能です。
- ・防具・竹刀は貸与します。その他の用具の準備については、オリエンテーション時に説明します。
- ・事故防止のため、装身具は外して受講して下さい。また、貴重品は各自責任を持って管理して下さい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | オリエンテーション(授業の進め方、評価方法、用具の準備等についての説明)(講義、ディスカッション) |
| 【第2回】 | 礼法、基本動作、素振り、基本打突(実技) |
| 【第3回】 | 切り返し、打ち込み稽古(実技) |
| 【第4回】 | しかけ技と応じ技(実技) |
| 【第5回】 | 約束稽古、掛かり稽古、互角稽古(実技) |
| 【第6回】 | 剣道の規則と試合の体験(講義、実技) |
| 【第7回】 | 剣道の試合と駆け引き(実技) |
| 【第8回】 | 審判法と試合の運営方法(講義、実技) |
| 【第9回】 | 試合(個人戦)の実施と運営(講義、実技) |
| 【第10回】 | 個人戦の振り返り(実技、ディスカッション) |
| 【第11回】 | 試合(団体戦)の実施と運営(講義、実技) |
| 【第12回】 | 団体戦の振り返り(実技、ディスカッション) |
| 【第13回】 | 剣道における安全管理(講義、実技) |
| 【第14回】 | 剣道具の管理・修理(講義、実技) |
| 【第15回】 | 授業のまとめと試験(実技、プレゼンテーション) |